

シリアの生活

(2003年10月)

1. 食生活

1-1 外食

(1) 飲食店

各ホテル内にレストランがある。各ホテルの詳細は「3.3-1 ホテル」を参照のこと。酒類の提供がある店と無い店がある。

< Sheraton Hotel >

高級シリア料理店、イタリア料理店、カフェテリア（朝、昼、晩にそれぞれ日替わりビュッフェ、アラカルトあり）がある。

< Meridien Hotel >

高級シリア料理店、カフェテリア（Sheraton Hotelに同じ）、屋外レストラン、西洋料理店（フランス料理、イタリア料理）がある。

< Cham Palace Hotel >

最上階の回転レストラン（夜のみ。シリア料理、西洋料理）、カフェテリア（シェラトン・ホテルに同じ）兼イタリア料理店、中国料理店（昼、夜）がある。日本料理店フジヤマがある。

メリディアン近くに、Orient Club、Noble Palace Restaurant という高級（5つ星）シリア料理店があり、フランス料理のメニューもある。旧市街には、Elissar（エリサール）、Casablanca（カサブランカ）などのシリア料理および西洋料理のレストランがある。

一般的なレストラン（2つ星）には、CHEVALIER、CAIMIERE、SINDIANAがあり、ここではシリア料理のほか、ステーキ、ピザなどの洋食もある。中国料理は、前述のシャーム・ホテル中国料理レストランのほかにドラゴンレストラン（セミラミスホテル内）と、カヌーンレストラン（Mezze地区）がある。イタリアレストランは旧市街のLa Guitare、メツェ地区のラ・フォンタナ。Al-Kassaa地区にS.O.S Sanabel レストランには寿司（ツナ、サーモン、タコ、イクラなど）刺身がある。

レストラン連絡先：

< 旧市街 >

Jabri House（アラブ料理）：所在地：Omayyad Mosque 近く

電話：11-5416254

Omayyad Palace（アラブ料理）：所在地：Omayyad Mosque 近く

電話：11-2220826

La Guitare（イタリア料理）：所在地：Bab Charqi 近く

電話：11-5419823

Casablanca（アラブ+フランス料理）：所在地：Bab Charqi 近く

電話：11-5417598

Zeitouna（アラブ料理）：所在地：Bab Charqi 近く

電話：11-5447624

Arabesque（アラブ+西洋料理）：所在地：Bab Rome 近く

電話：11-5433999

Elissar (アラブ料理)	: 所在地: Bab Touma 近く
電話: 11-5424300	
< 市中心 >	
Al-Kamal (大衆アラブ料理)	: 所在地: ツーリストインフォメーション隣
電話: 11-2323572	
Ali Baba (大衆アラブ料理)	: 所在地: Sham Palace Hotel 近く
電話: 11-2225434	
La Fontana (イタリア料理)	: 所在地: メッセオートストロード沿い
電話: 11-6115268	
Canoun (中国料理)	: 所在地: Mezze 地区
電話: 11-6116967	
S.O.S Sanabel (寿司 + イタリアン)	: 所在地: Al Kassaa 地区
電話: 11-4449689	

2 . 衣料

2-1 衣料

(1) 一般事情

夏季が 4 ~ 10 月と長いため、夏物衣料を多く用意するとよい。冬季はかなり寒いので、防寒用のコートが必要である。

衣料は、品質、デザインを問わなければひととおり入手できるし、スーツなどを仕立てることも可能である。

子供服は適当なものを見つけやすい。最近では国産のベネトンブランド店などがあり、品質は悪くない。輸入製品もある。多少高いが、材質、縫製ともにしっかりしている。

(2) 日本から持参した方がよい衣料、靴

男性: 背広(夏物、冬物)、ワイシャツ、ネクタイ(当地でも入手可)、ズボン、サマーセーター、セーター、カーディガン、防寒コート、スポーツウエア、パジャマ、ウインドブレーカー、下着(綿 100%のものは少ない、サイズが大きい)など。

女性: 通気性のよい夏物を多めに用意すること。合物は少なくともよい。スーツ、ワンピース、ジャケット、コート、セーター、ベスト、ブラウス、トレーナー、T シャツ、スポーツウエアや水着、下着、ストッキング、旅行用服の服装など。

袖なしの外出着は社会習慣上避けたほうが無難である。

子供: 下着、普段着、外出着、運動着など。男女とも半ズボン、長ズボンがたくさんあると便利である。アメリカンスクールでは、体育時間に体操着に着替えることはしないので、女子も半ズボン、長ズボン登校が普通である。

乳幼児: 綿 100%のニット地やガーゼ地のような素材の製品は入手困難である。おむつやおむつかバー、肌着を中心に、衣類の大半を持参したほうがよい。

「しよいこ」なども当地にはないので必要に応じて持参すること。

靴： 革靴、サンダル、運動靴等。

運動靴は有名ブランドのものが販売されている。

室内履き（スリッパに似たもの）や、つっかけなどはシリア製品で間に合う。

靴クリームやクリーナー、靴ブラシなどは市販されている。

小物：手袋（冬用）、日よけ帽子、サングラス、日傘（日差しが非常に強い）

(3) その他の留意点

買物用バッグ、旅行用バッグ、リュックなど各種袋物を持参すると便利である。

室内の床は石張りなので冬用の厚手の靴下、足カバーなどがあると良い。

2-2 礼装

(1) パーティー

日本人会主催のパーティーなどがあるが、モーニングなどの礼装は不要である。

男性は黒、またはダークスーツが一般的である。

女性はスーツやワンピースが多い。それに合うフォーマルなアクセサリーやハンドバッグなども忘れずに用意すること。

(2) 式典

天皇誕生日に日本大使館主催の祝賀会がある。招待されるのは、各配属機関の代表とその夫人である。正月明けには同じく日本大使館主催により新年会が開かれることもある。日本大使館に在留届の出ているすべての邦人が招待を受ける。

前項と同様、ダークスーツなどでよく、モーニングは不要である。

(3) 冠婚葬祭

念のため、黒または地味なネクタイを1本持参する。女性は、黒のフォーマルドレスまたはスーツを1着用意しておくといよい。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニング店は多数あり、ドライクリーニングやしみ抜きを依頼できる。一部、仕上がりのよい店も見受けられるが、一般的にはあまり期待できない。

洗剤や漂白剤は、国産のほかヨーロッパ製品が豊富に出回っている。ウールや絹製品専用の洗剤もある。（アイロン、洗濯機は後述する）

(2) 仕立て、修繕

紳士服、婦人服の仕立て・修繕店がある。

(3) 保管

乾燥しているため特に問題はない。日本と同様に、羊毛製品には衣料用防虫剤（パラゾールなど、当地で入手可能）を入れて保管し、皮革製品は日陰干しのあと、専用のクリーナーを使用すること。

3 . 食料品

町の至る所に小さな商店があり、野菜、肉類、米および乳製品が安価で入手できる。

米： 種類は豊富である。

電気炊飯器は販売していない。（日本から持参することになる）

野菜： 種類は豊富である。（大根、ゴボウの類はない）

- 果物： 日本に出回っているものは殆どある。
- 肉： 鶏肉、牛肉、羊肉が一般的で豚肉は入手困難である。
挽肉はあるが、スライスしたものは頼むことになる。
- パン： 食パンをはじめ種類は豊富である。
- 乳製品： チーズ、ヨーグルト、牛乳
- 調味料： 一般的な調味料は入手できる（醤油も探せばある）。味噌は無い。
- 酒類： キリスト教徒が経営する店で入手できる。

4 . 住宅（賃貸住宅）

独立家屋は殆ど無く、集合住宅を（100～200 平方メートル）を借りることになる。家具、家電（テレビ、洗濯機、冷蔵庫など）食器、調理器具類を含めた契約が可能。賃貸料は年間で 15,000 ドル～40,000 ドルと様々である。賃貸契約は 1 年間を基本とし、契約時一括払いが原則である。敷金は不要である。不動産屋を介した場合には契約総額の 5% を不動産屋へ支払う必要がある。電気： 供給電圧は 220V / 50Hz なのでデスク・トップのパーソナル・コンピュータやプリンタあるいは電気炊飯器を持参する場合は注意が必要である。変圧器は入手可能である。

5 . 病院など

5-1 病院

ダマスカス市内では Al-Sharmy Hospital（総合病院）を利用している。歯科、小児科などは個人クリニックを利用することになる。

5-2 美容院・理髪店

美容院は多数ある。地域により多少異なるが、シャンプー・セット付きでカットが約 500 ポンド、パーマが 700～1000 ポンドである。ホテル内の店は高い。理容店も多数あり、50～500 ポンド程度である。

6 . ホテル

高級、中級ホテルでは英語が通じる。1泊 100 ドル～150 ドル（季節変動あり）ホテルのレベルにかかわらず、滞在証のない外国人はすべて米ドル払いとなる。中・高級ホテルではクレジットカード払いが可能。邦人がよく利用するホテルは次のとおりである。

使用できるクレジットカード（CC）

A：アメリカンエクスプレス（AMEX）、 D：ダイナース（Diners）

J：JCB、 M：マスターカード（Master）、 V：VISA

Sheraton Damascus Hotel (シェラトンホテル)

所在地：Omayad Sq. (ウマイヤドスクエア)

電話：11-2229300

F A X：11-2243607

CC：A、D、J、M、V

Meridien Hotel (メリディアンホテル)

所在地：Al-Kouwatli Ave. (アル・コワトリ通り)

電話：11-3738730

F A X：11-3738661

CC：A、D、J、M、V

Cham Palace Hotel (シャームパレスホテル)

所在地：Maysaloun St. (マイサルーン通り)

電話：11-2232300

F A X：11-2226180

CC：A、D、J、M、V

Fardoss Tower Hotel (ファルドス・タワーホテル)

所在地：Fardoss St. (ファルドス通り)

電話：11-2232100

F A X：11-2235602

CC：A、D、J、M、V

Semiramis Hotel (セミラミスホテル)

所在地：Victoria Bridge (ビクトリア橋)

電話：11-2233555

F A X：11-2216797

CC：A、D、J、M、V

6-2 チップ

必ずしもチップを払う必要はないが、うまく使えば対応はよくなる。
各種配達などにおける、small services に対して5～20ポンド。

7 . 交通

一般事情

都市間の移動は長距離バスが主であり鉄道の利用は限られる。

概して運転者側に歩行者優先の意識が薄いようである。また、信号が赤であっても右折は許されているので歩行者は注意が必要である。

7-1 交通手段

<長距離バス>

首都と各主要都市を結ぶ幹線道路を往復する、もっとも重要な交通手段である。国営のカルナックバス、民営のトランスツアーバス、ほか多数のバス会社のサービス網が広域にわたり国内はもとよりジョルダン、トルコへも運行している

<タクシー>

黄色の車体で、町中を走っている。

深夜以外は容易に利用でき、メーター制で料金は安い。深夜は割増となる。

<セルビス（当地特有の乗り合いタクシー）>

通常のタクシーに比べ格安で、便利な交通手段である。長距離セルビスと、市内セルビス（国営の市内巡回バスの通る道路を走る）がある。

<国内航空（国営シリア航空の国内便）>

各主要都市（Damascus、Aleppo、Latakia、Al-Qamishli）間を運航している。

飛行時間は短い、飛行場から都心までの距離は遠い。Dayr az-Zawr（デリゾール）、Al-amishli 行きは、所要時間が大幅に短縮され便利である。

<鉄道>

首都から北方面行き（Aleppo、Ath-Thauraなどは夜行寝台）と、南方面行きがある。長距離バスに比べて所要時間は長い。1日の便数は極端に少ない（行き先別に約1~2本）。

<自家用車>

当地の交通事情を考慮すると自家用車（レンタカーも含めて）の運転は勧められない。

免許証：国際運転免許証で運転は可能である（期限は1年間）

当地の運転免許証を取得する希望がある場合は日本の運転免許証を持参する事。

<レンタカー>

運転手付きと、車両だけのレンタルがある。後者は長期の契約も可能である。

各トラベルエージェントで取り扱っている。「旅行代理店」の項を参照。

(1) 道路地図

全国地図は書店で入手可。地方の道路図は観光省のインフォメーションセンターで入手できる。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

最寄りの交通警察（Traffic Police：115番）に連絡すると同時に、110番に電話して救急車を手配する。ただし110番は英語が通じないため、現場にいるシリア人に応援を頼むか、病院に近ければ、救急車を待たず事故現場から直接運び込む（救急車がすぐに来るとは限らないため）。車両事故は警察を呼びレポートを書いてもらわないと保険がおりないので要注意である。

概して運転者側に歩行者優先の意識が薄いようである。また、信号が赤であっても右折は許されているので歩行者は厳重な注意が必要である。

(2) 救急病院

Al-Sharmy Hospital、Al-Asadi Hospital などがある。

(3) 盗難

車両の盗難の心配は少ない。ただし路上駐車せざるを得ない場合が多いので、施錠を確実にし、車外から見える場所に荷物を放置しないように注意すること。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

車は右側走行である。

交通違反には、信号無視、駐車違反、路線違反、スピード違反、歩道駐車、16：00～19：00の警笛使用などがある。

8 . 通信

8-1 電話

(1) 一般事情

カード電話が1994年より開設された。国際電話も可能なカードは電話局で販売している。ただし、公衆電話は少ないため、緊急の際は最寄りのホテルの電話を利用している。

近年は携帯電話の普及が著しい。

(2) 国際電話

直通の場合は、国番号に続けて市外局番（最初のゼロを除く）、相手の番号を回す。日本へは1分ごとに90ポンド、アメリカへは1分ごとに75ポンドである。時間帯により割り引き料金となる。日本への電話の場合シリア時間14：00～19：00で1分50ポンドとなる。

(3) 携帯電話

2000年よりサービスが開始され、非常な勢いで普及している。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

ホテルではファクシミリ送信サービスを利用できる。

賃貸住宅を借りる場合にファクシミリを備え付けることも可能である。

(2) インターネット

国営のプロバイダーに申し込んでメール・アドレスの取得が可能である。基本料金は350ポンド（10時間）である。インターネット・カフェも徐々に増えている。一般回線の転送速度は非常に遅い。ISDN回線も増えてはいるが接続料は高価である。

パーソナル・コンピュータはデスクトップ・タイプ、ノートブック・タイプのいずれも入手可能である。

8-3 郵便

(1) 一般事情

シリアには郵便物の宅配制度はない。私書箱に（有料）投函されている郵便物を受け取りに行く。JICA関係者はJICAの私書箱気付けで郵便物を受け取ることができる。

日本から封書、小型包装便は1週間～10日、シリアからの発送は2週間～20日か

かる。

日本から荷物を送る場合自宅への国際宅急便は避けるべきである。（連絡不能で送り返される可能性が高い）

郵便局の営業時間は7:00～13:00の業務で金曜日は休業である。

(2) 郵便小包

日本から郵便物を発送する場合、時には届かないこともあるので、重要なものは確実に受け取りができる場所への国際宅急便にすること。2kgを超す小包を引き取る時は内容検査を受け、税金・保管料などを支払って受け取ることになる。

通関手続（検査、課税）が煩雑であるので、もし2kg以下であれば小型包装便（Small Packet）の利用を勧める。この場合は内容検査も課税もなく引き取ることができる。カセットテープや軽量の衣料、書籍などの郵送に便利である。

(3) 課税

日本食品などはほとんど課税されない。課税率の高い物品は、新品の衣料・靴などである。いずれの場合も、前述の税関告知書の価格申告欄には要注意である。

(4) 民間サービス業者(Servicio de Mensajería)

該当情報なし。

9 . その他のサービス

9-1 金融機関

銀行で米ドル用の個人口座が開設できる（滞在許可証取得後）。これにより海外から送金されたドルをドルで受け取ることができる。

(1) 換金方法

銀行、ホテルでシリアポンドに換金。いずれも現地通貨からの逆両替はできない。（ホテルによっては46ポンド＝1米ドルの所もある）

闇両替もあり町中で声がかかるが、これは違法なので利用しないこと。

(2) 換金場所

銀行、空港、ホテル内の両替所。

スークなどで両替を呼び掛ける人に出会うことがあるが闇両替なので注意すること。

10 . 出入国手続

10-1 入国時

(1) 空港施設概要

発着ゲートは1階および2階である。パスポートコントロールや税関は1階にある。屋上には送迎デッキと喫茶室がある。

(2) 入国手続書類

入国カード（出国時まで保管）、パスポート（入国または滞在ビザ）である。

(3) 入国審査

入国ビザ、入国カードのチェックのみである。入国ビザは、公用旅券保持者はシリア外務省で、一般旅券保持者は内務省で、それぞれ入国日から2週間以内にマルチプルの出入国ビザもしくは滞在ビザなどへの切り替えが必要である。

(4) 税関検査

持ち込み禁止品は麻薬、ポルノ、けん銃、ビデオカセット、高性能短波ラジオなどである。

(5) 空港内での留意点

空港内外には軍関係施設があるため、記念撮影以外にむやみに撮影しないこと。

(6) 空港からの主な交通手段

ハイヤー利用が一般的である。タクシーも便利である。空港出口付近に、トランスツアーなどの旅行代理店が出店しているので、そこで頼むとよい。

(7) その他の留意点

空港でのカート使用料は50ポンド、車の駐車料は25ポンドである。

10-2 出国時

(1) 出国時の概要

「10-1 入国時」を参照のこと。

(2) リコンファーム

ホテルのレセプション、あるいは直接航空会社支店に電話する（72時間前まで）。

(3) チェックイン

国際線は出発の2時間前、国内線は1時間前。

(4) 空港利用税

出国税：1人200ポンドの印紙を窓口で購入する。

(5) 出国手続き上の留意点

一般旅券保持者に関しては、出国、再入国のつど、それぞれのビザが必要である。JICA関係者など公用旅券保持者は、マルチプルの出入国ビザ（6か月有効）を取得しているので、その期間中は出国・再入国を何度繰り返しても、出国および再入国ビザの取得は必要ない。ちなみにホテルなどのシリア・ポンド払いには、出入国ビザとともに滞在証（1年有効）の取得が必要となる。

11. 旅行

旅行代理店

主な観光旅行代理店は以下のとおりである。パックスツアーの料金は法外に高いので、何人かで1台の車を借りるか、長距離バスや自家用車を利用し、自分でアレンジしたほうがよい。ユーフラテス川ミニクルーズ、マール・ラ・セドナヤ日帰りツアー、パルミラ・ラクダ excursion、ダマスカス1日ガイドツアーなどのパックスツアーもある。

Silk Road Travel & Tourism
所在地：Fardoss Str. –P.O. Box 12958
電話：11-2230500
F A X：11-2231138/2315555
E-mail：hanano@silkroad-tours.com

Nahas Travel & Tourism
所在地：Al-Fardoos St.
電話：11-2232000
F A X：11-2232006
E-mail：sales@nahastt.com

Minerva Travel & Tourism
所在地：Al-Rawda
電話：3311886
F A X：3335135
E-mail：minerva@net.sy

Cham Tour
所在地：Sham Palace Hotel 内
電話：11-2232300
F A X：11-2212398

12 . 社交

12-1 風俗習慣

一見、西洋化された街並みや服装であるが、人々の生活はイスラムの教えに基づいており、地味で質実剛健である。

対人関係を重んじ、社交性・社会性を尊び、大人としての風格や言動が求められる社会である。女性はノースリーブの服装を避けるべきである。

12-2 パーティーでの留意点

体制への批判めいた話題、もしくは政治上の微妙な話題は避けること。
当国のよさを理解すべく、積極的に友好関係を広げるよう努めれば、極めて寛大に当国社会に受け入れられる。

12-3 来客時の留意点

イスラム教徒の訪問客には、豚肉製品を使った料理を出さないこと。

12-4 訪問時の留意点

該当情報なし。

12-5 土産物

日本の絵はがき、香水の小ビン、花束、チョコレートなどのちょっとしたプレゼントがあるとよい。イスラム教徒宅を訪問する際は、ワインなどのお酒は避ける。また、訪問先の子供にお金をあげることも避ける。

12-6 禁止されている言動(タブー)

見かけが西洋化していることにより、イスラム教の緊張感を感じにくい。間違っはめをはずすことのないよう要注意である。特に男女関係は極めて厳しく制限されているため、みだらな服装や軽はずみな言動は厳に慎むべきである。

12-7 日本人会

2003年11月現在76名在籍。入会金200ポンド、個人会費年間1200ポンド。日本語補習校を運営している。運動会や忘年会等の行事がある。

12-8 現地人との交流

チップ(バクシーシ)は必要な場合が多いが、道を教えてくれたり、親切にしてくれた人に対しては、お礼にお金をあげてはいけない。